

到達目標を明示したスペイン語教育の 実践に向けて

プロジェクトメンバー：大森洋子*、三角明子、Concha MORENO、落合佐枝（*：代表者）

明学ポートフォリオ（2015年3月刊行）に挙げた指標を見直し、より学生が分かりやすい形にする作業を始める。特に、通常の授業を考え、教科書を検討し、何ができなくてはいけないかをより明確に分かりやすい形でまとめる。

授業での目標を、初級A1-1, 1-2, 中級をA1-3, 1-4, A2-1, 2-2程度を目標に、対照表をつくり、教育の面での利用、また学習の面での利用ができるようにする。

特に、コミュニケーション目標は具体的になっているが、文法項目の位置づけを明確にし、使える外国語をめざす。← 成果を教育スタッフと共有し、より改善に近づける。

評価スタイル：特に何を評価するかを具体的に提案、テストで行なわれていることが、実際に評価したいことを正しく反映しているかを検証する。（テスト問題を検証していく。）

今後の方向性として：

教育スタイルと学習スタイルがマッチしているかを検証する。学生の学習スタイルにある特徴があるのかないかを検証する。それに基づいて、教材、授業方法などとの整合性を検証する。

学生の到達度：より客観的なテストを利用して、平均的な学生がどの程度、学習が進んでいるかを検証する。（テストの利用を検討）その上で、到達目標に修正点がないかを検証する。

授業：学習スタイルの検討と振り返りを考える

⇒ 学習ポートフォリオの利用方法を考える。

授業活動とその評価：積極的に授業活動の成果物を集め、検証することにより、到達度を示す資料として提示する。

成果物を分析することによって、到達目標の修正、さらに授業内容、教材を検討するための方策を具体的に示す。← 次年度以降